



## 第50回ローターアクト地区協議会を終えて

国際ローター第2510地区

ローターアクト委員会 高橋 耕

(札幌南RC)

去る12月3日に赤平交流センターみらいにて、第50回ローターアクト地区協議会が開催されましたので、ご報告いたします。

コロナの状況もあり現地で開催される地区協議会は3年ぶりということで、皆さんに直接お会いすることが楽しみでありました。前日より天候がいきなり冬模様になっておりまして、赤平では積雪が多く道路状況が悪い中、石丸ガバナーをはじめ多くのロータリアンが現地で参加されておりました。現地で参加されたロータリアンをはじめ、多くの登録をいただき、この場をお借りして御礼申し上げます。



地区協議会の趣旨はローターアクトがいろいろな形式で、ローターアクトやロータリーについて、また様々なテーマについて勉強することであります。今回は、2022年度から変更されるローターアクトの制度についての知識を深めることが、メインのプログラムでした。年齢制限がなくなることや、人頭分担金を負担すること、補助金を申請できることなどの解説がなされ、参加者の中からは、青少年に関わりのないロータリアンにどのように周知していくべきか等、積極的な意見が多くみられた。また、どのように変化していくのか見えてこないと不安を感じる意見もあった。ローターアクト委員会の活動テーマのひとつの新アクトクラブの設立があるが、やはり多くのロータリアンに知ってもらわなければならないと考えています。ローターアクトの情報を入手し、情報発信の機会を増やしていくことが重要と改めて実感しました。やはり現地で直接議論を交わすことは、オンラインにはない迫力や緊張感があり、雑談も交えながら意見交換ができるので貴重な場であると改めて実感いたしました。今回の協議の内容を、今後の活動のヒントとしていきたいと思っております。

懸念点としては、第2510地区内のホストクラブ以外からの参加者が少なかったことがあげられます。ここ数年、様々な地区行事が中止、またはオンライン開催となり、直接交流する機会がなくなったことが原因ではないかと、私は考えています。地区内のローターアクトには、直接交流する機会が少なくなっても工夫しながら交流を深めてもらいたいと思っておりますし、委員会としてもなにか企画していきたいと感じました。

普段はメールやラインでやり取りすることが多いのですが、協議会の開催にあたり、ローターアクトの地区代表や協議会の実行委員長と何度か電話で話す機会がありました。メール等では伝わりにくいことが、相手の口調で感じ取れる良い機会でした。オンラインにはない対面の良さ、メールにはない直接会話することの良さを、オンラインやメールなどより不便かもしれませんが、実感できた協議会であったと思います。

